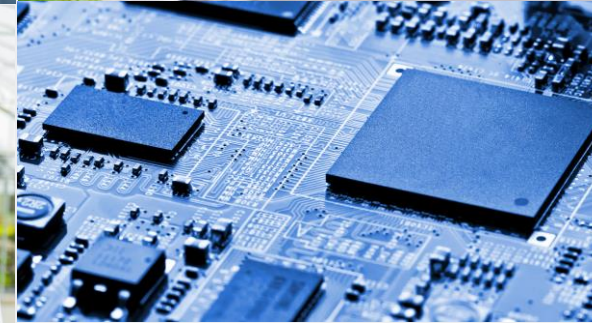




西村証券草津支店 ミニIRセミナーご参加のみなさまへ

株式会社島津製作所のご紹介（東証プライム市場：証券コード7701）

コーポレート・コミュニケーション部IRグループ | 2024年11月22日

01 誕生から現在

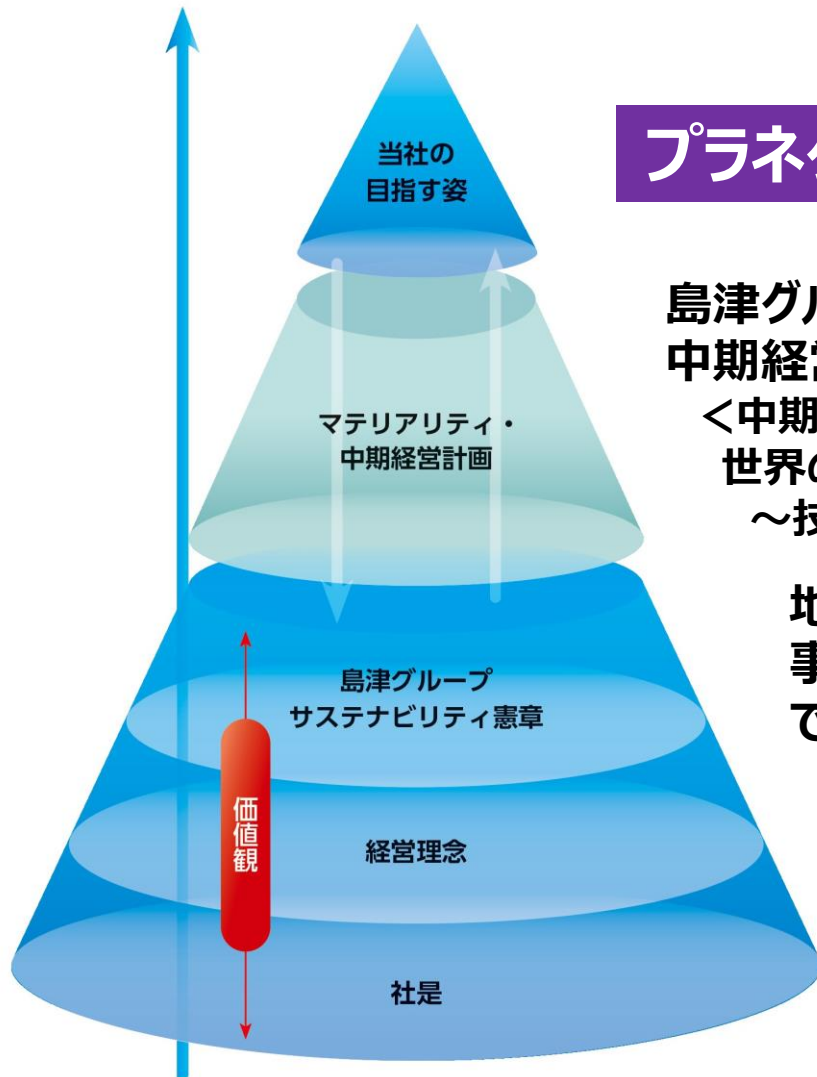
【二代 島津源蔵の言葉】
学問を教えられたら
その応用を考えなくてはならない、
死に学問ではだめだ



社是：科学技術で社会に貢献する

02 サステナビリティ経営：理念

価値観と目指す姿



プラネタリーヘルス（人と地球の健康）の追求

島津グループサステナビリティ憲章に基づき、
中期経営計画を通じて重要な経営課題（マテリアリティ）の解決に取り組む
＜中期経営計画＞

世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニーへ
～技術開発力と社会実装力の両輪強化により持続的成長を果たす～

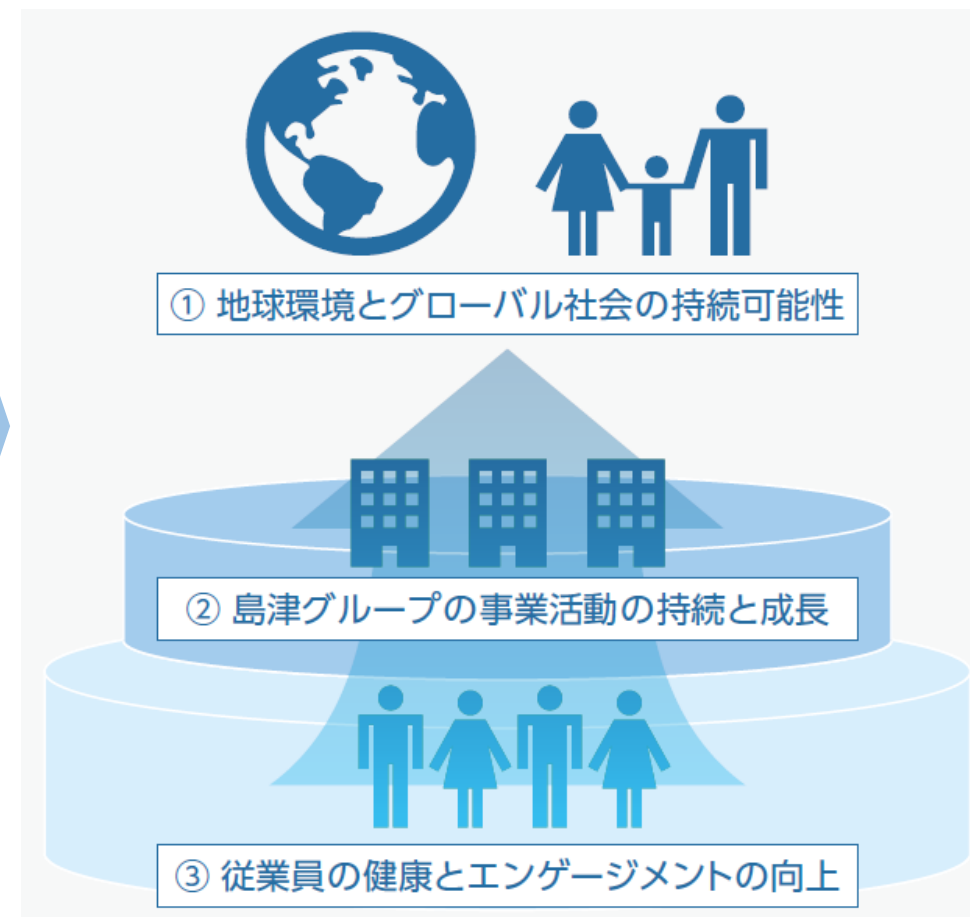
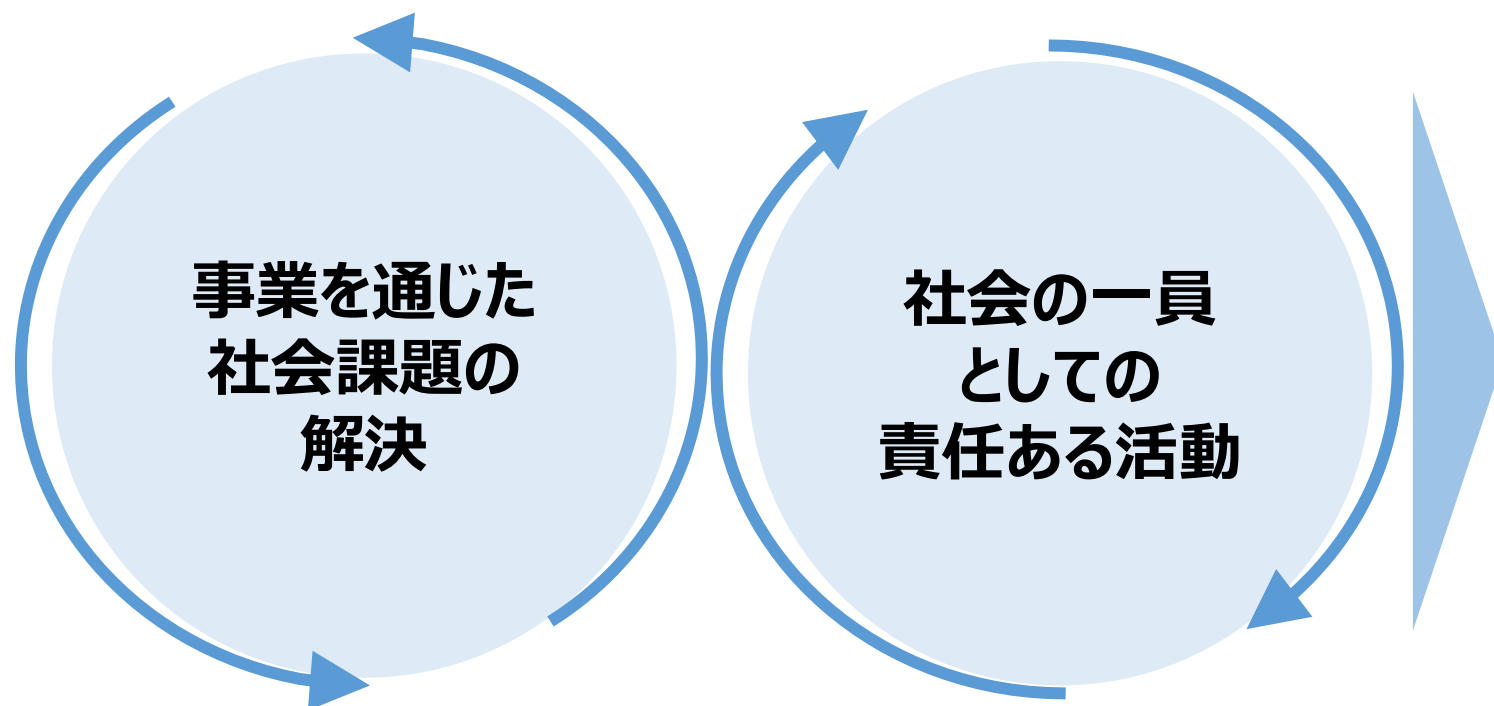
地球・社会・人との調和を図りながら、
事業を通じた社会課題の解決”と”社会の一員としての責任ある活動”の両輪
で企業活動を行い、明るい未来を創造します。

「人と地球の健康」への願いを実現する

科学技術で社会に貢献する

サステナビリティ経営の考え方

- 「事業を通じた社会課題の解決」と「社会の一員としての責任ある活動」の両輪で
①地球環境・社会 ②島津グループ ③従業員 のサステナビリティの実現を目指す



03 サステナビリティ経営：重要な経営課題（マテリアリティ）

重要な経営課題（マテリアリティ）

	事業を通じた社会課題の解決		基盤テーマ（経営、技術関連）	
E 環境	 ①地球の健康 (脱炭素, サークュラーエコノミー, 生物多様性, 公害防止)			
	 ②人の命と健康 (メドテック, 医療, 製薬, 健康食品)		(従業員の健康と安全)	
S 社会	 ③産業の発展と安心・安全な社会 (新素材, 産業イノベーション)		(製品品質、安全)	
	 ④科学技術の進歩・高度化 (特許, R&D, 標準化)			
			 ⑤開発・製造能力の向上 (IMS, DX, SCM, BCM)	
			 ⑥人財の育成 (エンゲージメント, 能力開発, DE & I)	
G ガバナンス			 ⑦ガバナンスの強化 (グループマネジメント, 人権, リスクマネジメント・コンプライアンス, ITセキュリティ)	

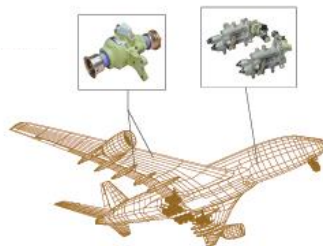
04 重要な経営課題（マテリアリティ）の解決に向けて： 事業の“いま”と“これから”

事業セグメント

航空機器事業

6%

295億円



フライトコントロールシステム

フライトコントロールシステム

最先端の搭載機器を提供し、「安全・快適、負荷軽減」に貢献

産業機器事業

13%

654億円



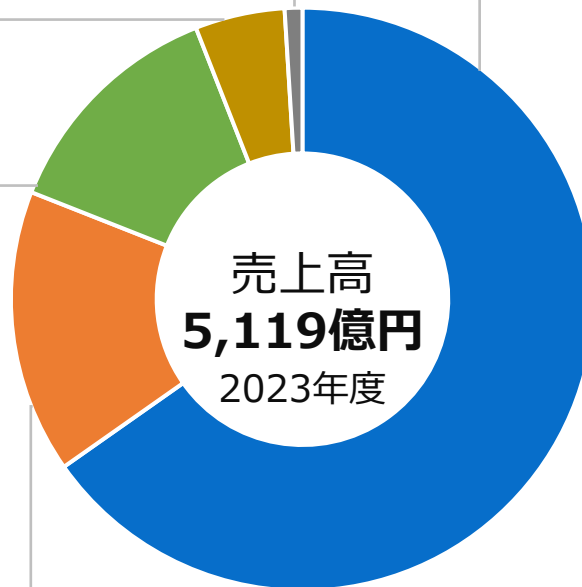
ターボ分子ポンプ



油圧ギヤポンプ

高性能なキーコンポーネントを提供し、最先端のものづくりの発展に貢献

その他
1%



計測機器事業

66%

3,383億円



液体クロマトグラフ質量分析システム

分析計測機器を提供し、様々な分野で、研究や技術開発、品質管理に貢献

医用機器事業

14%

723億円



血管撮影システム

X線画像診断装置を提供し、人の健康の維持・向上に貢献

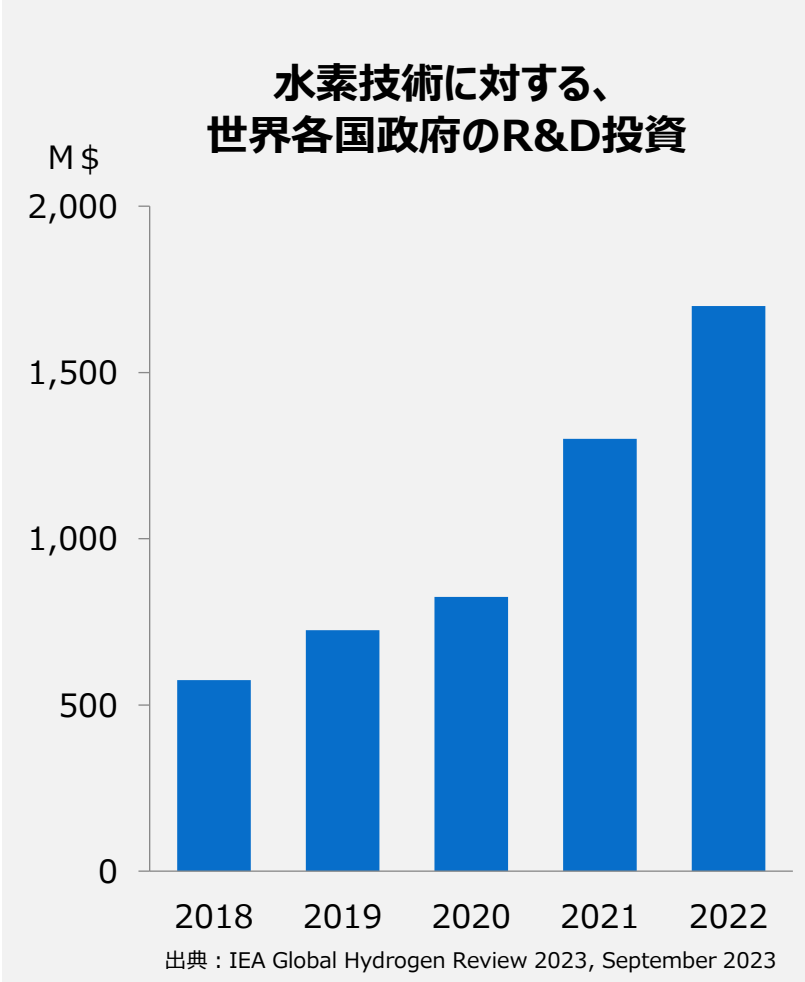
事業領域と取り組むテーマ



05 地球の健康への貢献 “いま”と“これから”

“地球の健康”への貢献 水素エネルギー研究に向けた取り組み

■ 水素ビジネスを支援するためのトータルソリューションを提供



水素脆弱性対策

水素貯蔵

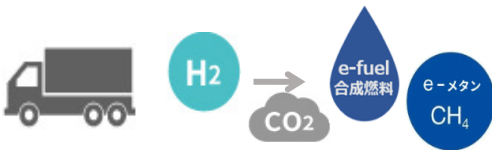


- 物質・材料研究機構の新規ISO規格提案に協力し、試験機を使用して「高圧水素中材料試験法」：**ISO 7039** を**2024年7月に制定**



精密万能試験機

水素の品質・製造コスト低減



- **水素の純度分析システムを顧客と共同で開発**
- 分析時間を大幅に短縮した**GCを製品化**

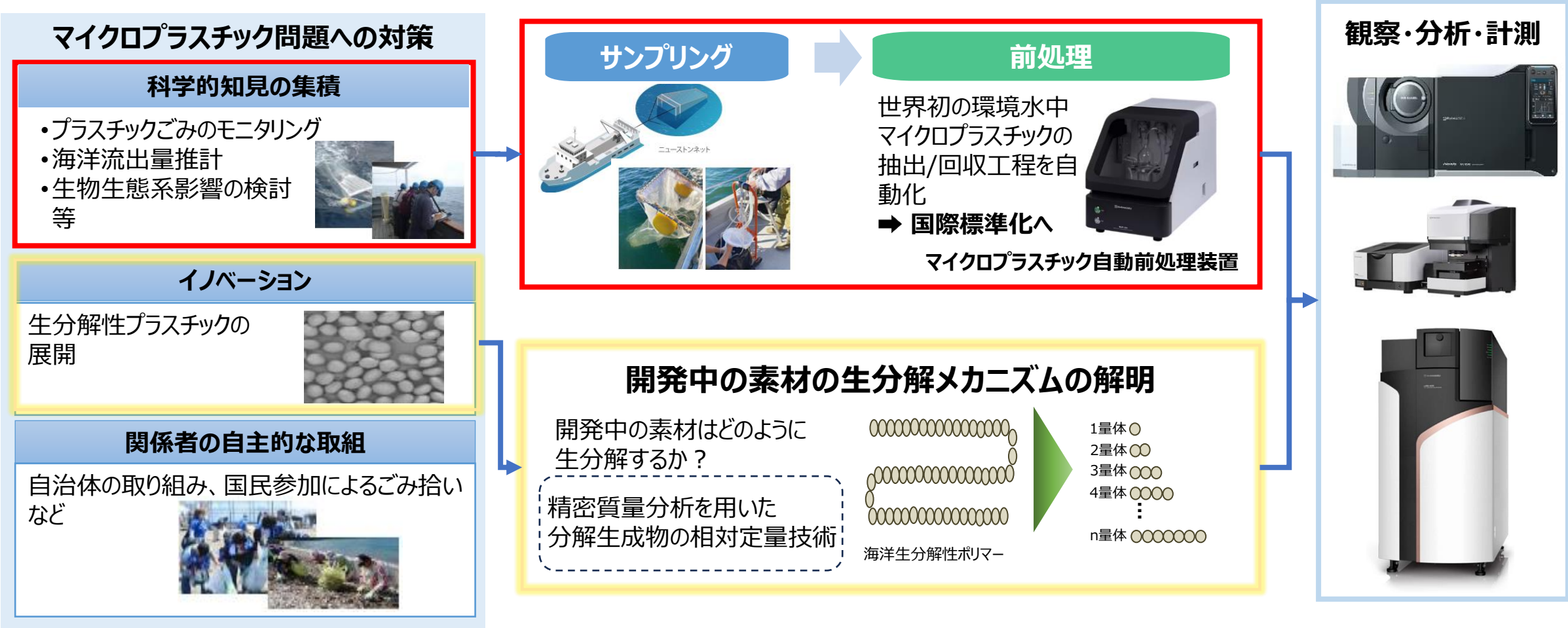
水素、CO2、アンモニア分析



ガス分析システム

“地球の健康”への貢献
マイクロプラスチックの海洋流出対策への貢献

■ マイクロプラスチックは生物への影響や有害化学物質の運び屋になり海洋環境への影響を懸念。科学的知見の集積とイノベーションの分野で支援を実施



“地球の健康”への貢献 バイオものづくり

-石油や天然ガス由来のものづくりから、バイオ技術を用いた化学製品の生産-

“これから”

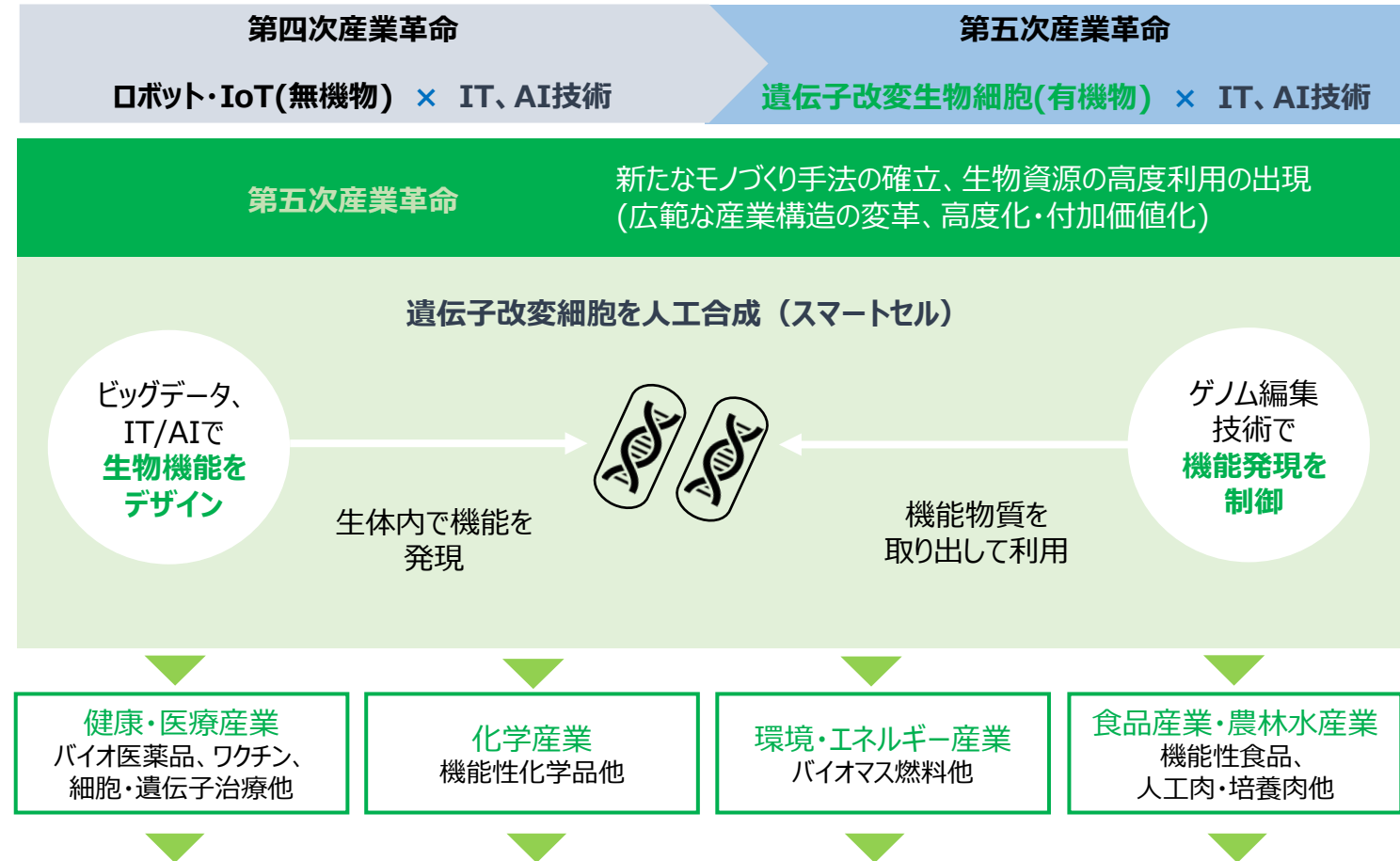
・市場規模

2030年：約200兆円

・バイオ、製薬、新素材開発などに
自律型実験システムを開発、社会実装



自律型実験システム（Autonomous Lab）



【健康・医療問題】【地球環境問題】【人口・食料問題】などの**社会課題を解決**

“地球の健康”への貢献 – 将来のイメージ –



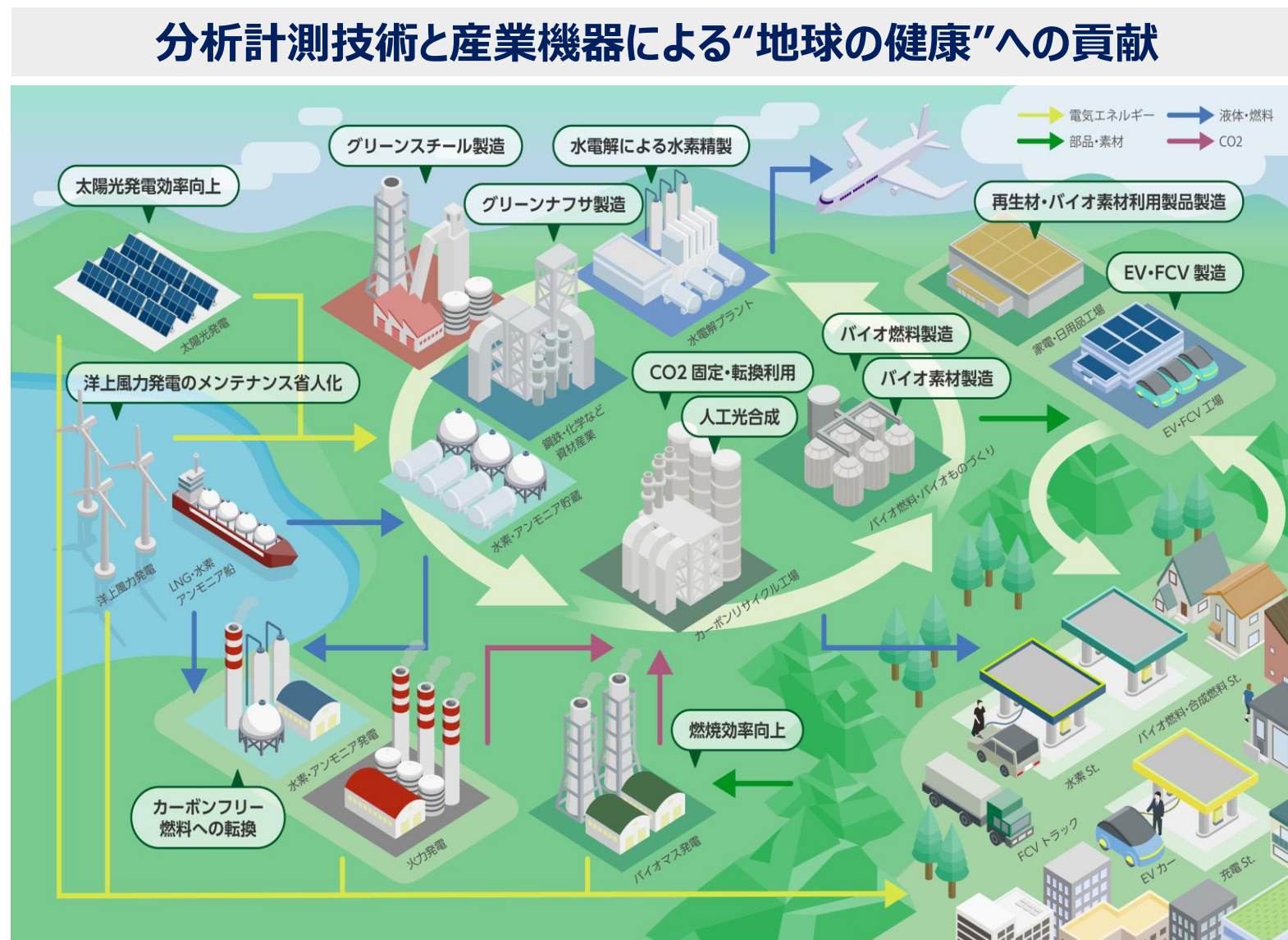
**元素選択式
ガスクロマトグラフ
質量分析システム**



温室効果ガスアナライザー



フーリエ変換赤外分光光度計

ターボ分子ポンプ^o 油圧ギヤポンプ^o

精密万能試験機

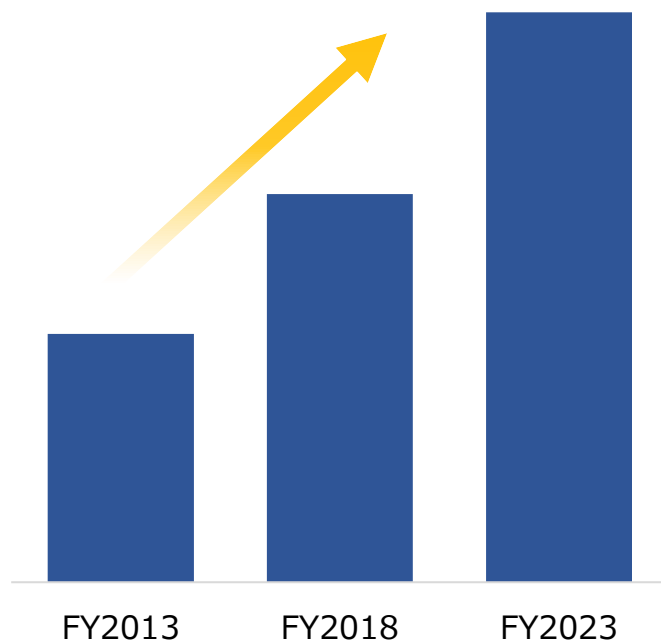


マイクロフォーカスX線CTシステム

06 人の命と健康への貢献 “いま”と“これから”

- 主力の計測セグメントの売上高の **約20%** が製薬市場向け
- FY2018-2023の5年間の製薬市場向け売上高の年平均成長率は **8%**

製薬市場向け売上高



当社の製薬市場における状況

- ・ 高成長を続ける**製薬市場**で、**市場の伸びを上回る事業拡大**
- ・ **日本、インド、中国などアジア**を中心に、液体クロマトグラフ(LC)が品質管理部門で**高シェアを確立**
- ・ 製薬企業のニーズを反映した特徴ある製品をドアオープナーに、**北米の大手製薬企業を開拓中**。北米現地の製薬ニーズを現地で解決するために、R&Dセンターを2024年4月開設

“人の命と健康”への貢献 製薬分野～北米業績拡大に向けた製薬市場への取り組み～

製品の拡販

- ・顧客と共同開発を進め、顧客ニーズを反映し商品化
- ・売上や引合は好調に推移

製薬市場開拓



セミ分取超臨界流体クロマトグラフ

臨床市場開拓



高効率多流路LCMS

営業力強化

- ・製薬向けの営業（販売員を2倍増）やマーケティング、サービスの強化
- ・臨床担当販売員の新規採用
- ・デジタルを活用したインサイドセールスを導入

開発力強化（北米R&Dセンター3施設設立）

- ・重要顧客と共同開発を進め、先端ニーズに対応した北米発の製品投入
- ・製薬や臨床分野で、液体クロマトグラフや質量分析システムのアプリケーション開発力を強化

西海岸開発センター

製薬＆バイオ系企業と協働し、メソッド開発

東海岸開発センター

大手製薬上流部門やアカデミアと協働し、メソッド開発



北米3拠点での
開発体制構築

北米R&Dセンター

- ・核酸や遺伝子治療薬領域に向けた製品・アプリケーション開発
- ・標準化・規制化への対応

“人の命と健康”への貢献 臨床分野～新生児マススクリーニングへの対応～

■「稀少疾患」の発症リスクを検査し、早期発見・治療に繋げる



幾つかの病気は、生後すぐに
発見し治療を始めると症状の出現
・進行を予防できる

疾患の早期発見・治療に繋げる
ために**新生児マススクリーニング**
を実施

代謝異常症



液体クロマトグラフ質量分析計による
タンデムマス・スクリーニング

遺伝性代謝疾患

酵素の体内生成が不十分なために発症
先進国では全新生児の検査を実施

- 20
種
類
- ・甲状腺ホルモンの欠乏症
 - ・副腎皮質ホルモンの欠乏症
 - ・糖の代謝異常症
 - ・アミノ酸の代謝異常症 5 疾患
 - ・有機酸の代謝異常症 7 疾患
 - ・脂肪酸の代謝異常症 5 疾患
- * 都道府県・政令指定都市において実施

免疫不全症・脊髄性筋萎縮症

令和 5 年度より国において調査研究
（こども家庭科学研究）を実施
令和 5 年度補正予算で実証事業実施



PCR試薬キット「TKSneoFinder」※

※本製品は研究用です。医薬品医療機器等法に基
づく承認・認証等を受けておりません。

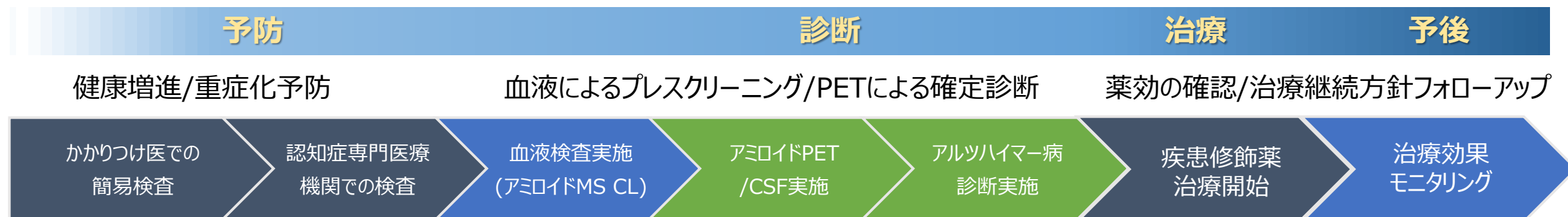
鎌状赤血球症

・アフリカ・地中海沿岸・中近東
インド北部で多い疾患
血液検査用試薬「NeoSickle」

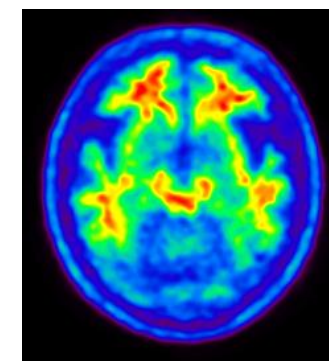
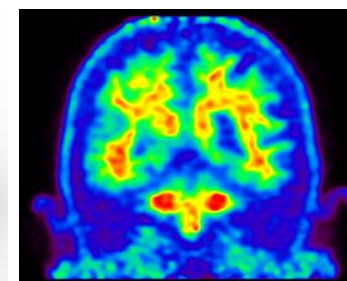
“人の命と健康”への貢献 臨床分野～アルツハイマー病への取り組み～

“いま”と“これから”

■ 認知症の早期発見から予後まで一貫した新たなソリューションの提供を目指す



血液検査による脳内アミロイドβ蓄積の推定



PETによる脳内のアミロイドβ蓄積の画像化

2024年5月に頭部と乳房検査用TOF-PET装置「BresTome」が米FDA認証を取得。
今後日本に加え、北米市場での拡販を狙う

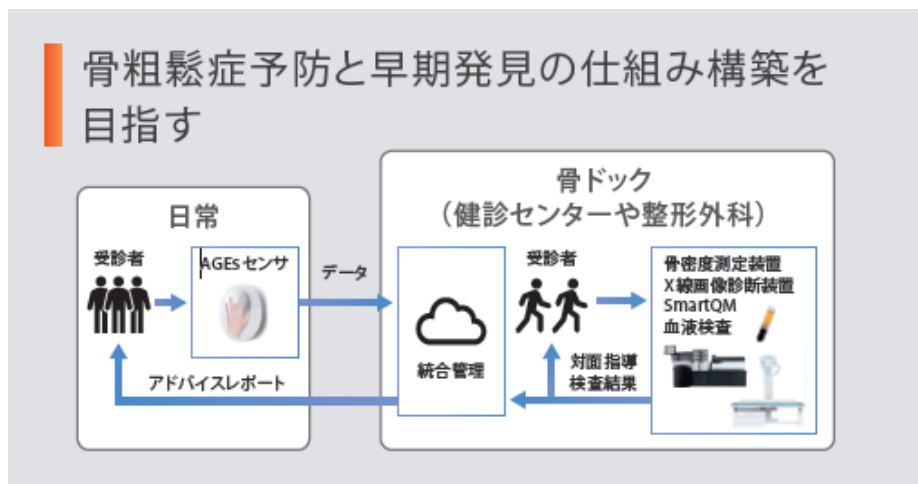
“人の命と健康”への貢献 「幸せな健康長寿の実現」へ向けて

“これから”

■ 積極的な共創により、革新的な技術・製品の開発や新たなサービスの社会実装に取り組む

1) 慈恵大学

- ◆ 最先端技術の研究開発に向けて5か年の包括連携協定を締結。
「骨の健康」を対象とした臨床ニーズの探索、共同研究の促進、
人材育成を進めている（2021年12月～）

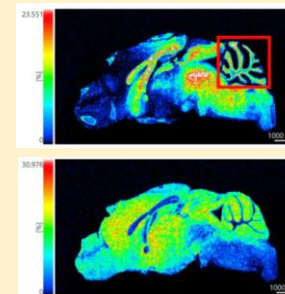


2) 島津×東北大学 超硫黄生命科学共創研究所

- ◆ 当社の質量分析技術で、超硫黄分子の分析をすることで、
老化を防ぐ医薬品や食品の開発への貢献を目指す
(2024年3月～)

【人生100年時代のヘルスケア】

- ・超硫黄分子とは・・・強力な抗酸化作用を持ち、疲労や老化、疾病の一因とされる過剰な活性酸素の働きをコントロールすると考えられている。
- ・老化のメカニズムを解明し、健康寿命を延ばす



イメージング質量顕微鏡



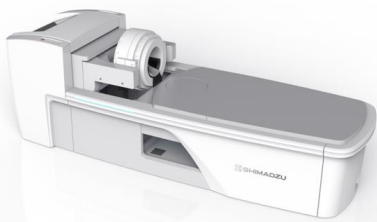
“人の命と健康”への貢献 – 将来のイメージ –



高速液体クロマトグラフ
質量分析システム



血管撮影システム



TOF-PET装置

分析と画像診断技術による“人の命と健康”への貢献



セミ分取
超臨界流体クロマトグラフ



高速液体クロマトグラフ
イナートシステム



抗体糖鎖自動前処理装置

07 業績&株価

売上高・営業利益推移

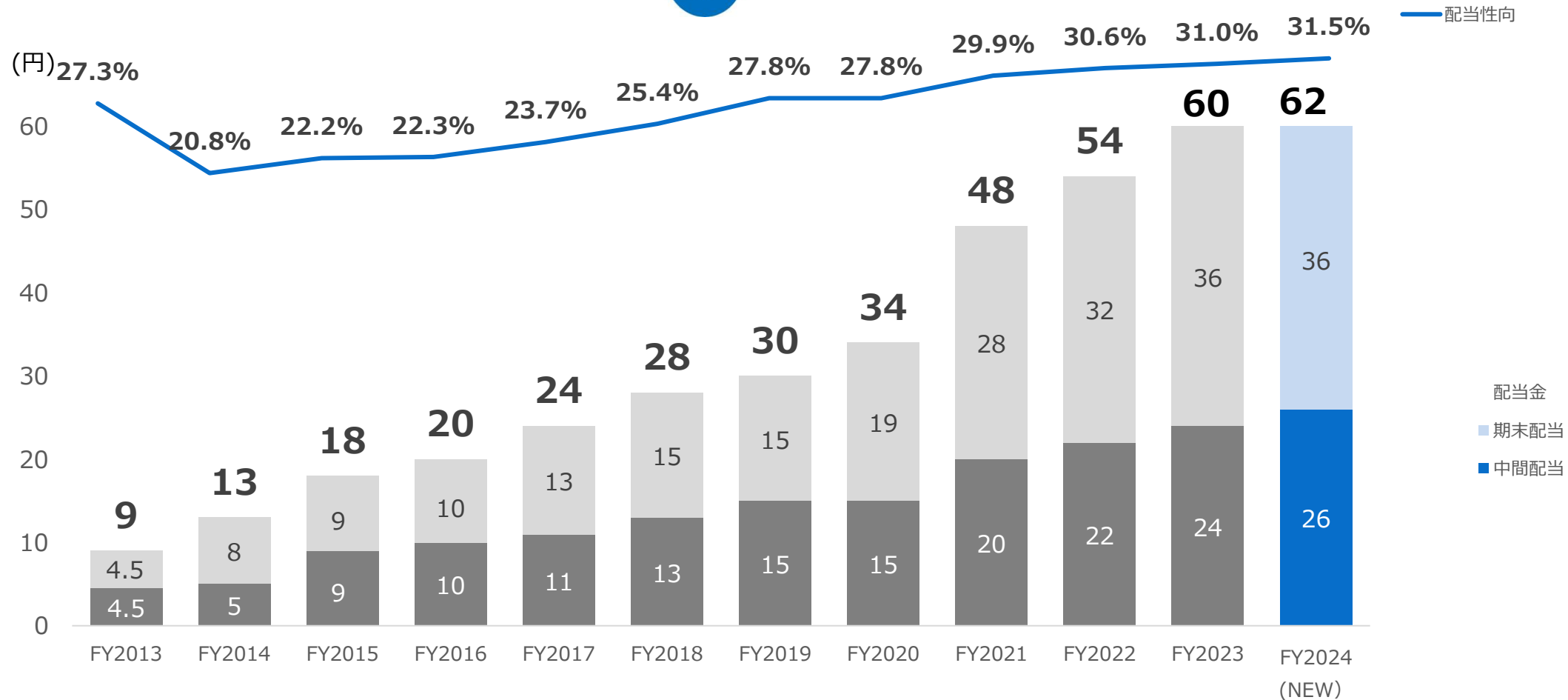
- ・5期連続で過去最高の売上高、営業利益の更新を目指す
- ・過去10年の平均成長率 売上高：6% / 営業利益：12%
- ・海外売上高比率：2014年度 49.8%→2023年度 57.9%



株主還元

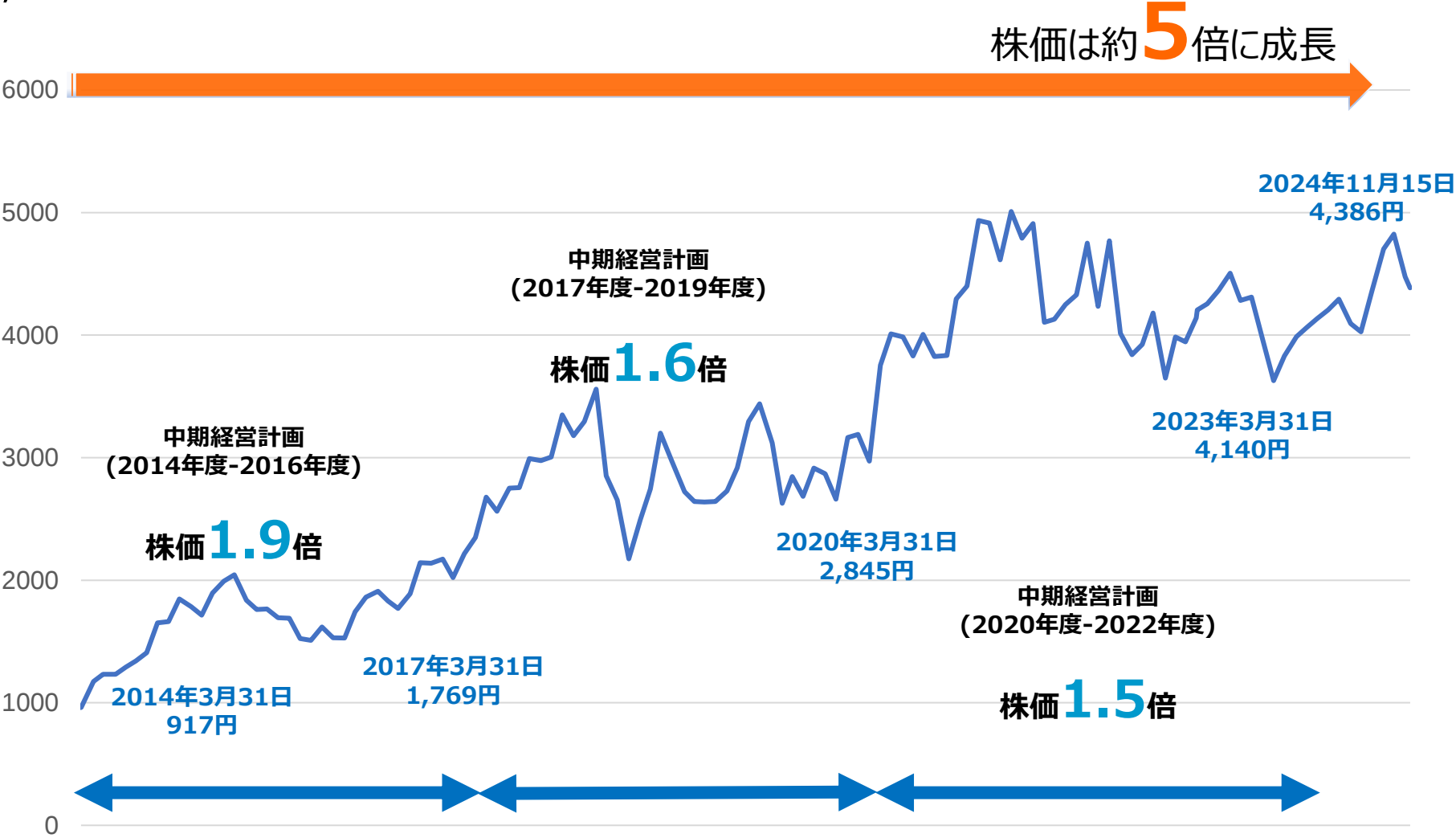
 **配当金**
11期連続増配

 **配当性向**
2024年度は**31.5%**を予定



株価推移

時価総額：1兆2,985億円（2024年11月15日時点）



08 最後に

まとめ

強み

- ・産業の進歩や発展に対応し、貢献するために技術開発力を追求

サステナビリティ

- ・「事業を通じた社会課題の解決」と「社会の一員としての責任ある行動」の両輪でサステナビリティの実現を目指す

ヘルスケア

- ・製薬、臨床分野攻略に向けたトータルソリューションの提供
- ・健康長寿社会実現に向けた取り組みを推進

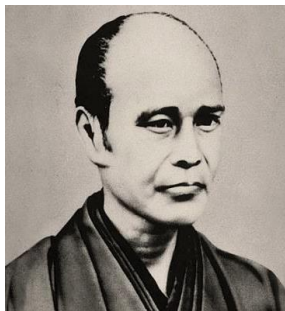
グリーン

- ・バイオものづくりなど革新的な分野で脱炭素社会実現に貢献

業績 株主還元

- 2024年度
- ・売上高5,400億円、営業利益760億円 5期連続過去最高更新を目指す
- ・年間配当62円、配当性向31.5%。11期連続増配を予定

最後に



初代 島津源蔵



二代 島津源蔵

常にステークホルダーの要望に耳を傾け続け、
2025年3月に初代島津源蔵が創業してから**150年**を迎えます

今後も、

《社是》科学技術で社会に貢献する

《経営理念》
「人と地球の健康」への願いを実現する

島津グループサステナビリティ憲章

に基づき、世界のパートナーと共に**プラネタリーヘルス**を追求し、**存在意義の向上**に努めます。



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となる場合があります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

09 補足資料

2024年度中間決算 業績サマリー（2024年4月～9月）

	単位：億円	中間期(4月-9月)		前年同期比	
		FY2023	FY2024	増減額	増減率
業績	売上高	2,395	2,512	+117	+4.9%
	営業利益	325	302	▲23	▲7.0%
	営業利益率	13.6%	12.0%	▲1.5pt	
	経常利益	359	284	▲74	▲20.8%
	親会社株主に帰属する当期純利益	266	213	▲52	▲19.7%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	141.03	152.68	+11.65	+8.3%
	ユーロ（円）	153.43	165.98	+12.55	+8.2%
	研究開発費	102	135	+32	+32%
	設備投資額	121	111	▲10	▲8%
	減価償却費	92	97	+5	+5%

(除中国：+9.1%)

為替影響額

(売上高、営業利益は平均為替レートで、営業外損益は期末レートで計上)

売上高： +109億円

営業利益： +38億円

経常利益・純利益：

営業外損益 ▲50億円

FY2023中間：為替差益+26億円（期末レート：3月末・1ドル134円→9月末・150円）
FY2024中間：為替差損▲24億円（期末レート：3月末・1ドル151円→9月末・143円）

2024年度通期業績予想

- 全ての項目で5期連続で過去最高を更新する計画
- 期初予想から売上高を150億円上方修正
- 将来につながる成長投資を継続：研究開発費65億円増 人財投資80億円増

売上高	5,400 億円	前年同期比	+5 %
営業利益	760 億円	前年同期比	+4 %
経常利益	770 億円	前年同期比	+0 %
当期純利益	580 億円	前年同期比	+2 %

為替感応度			研究開発費		設備投資		減価償却	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比	
米ドル：145円	売上高：	米ドル 15億円	280 億円	+65 億円	280 億円	+55 億円	200 億円	+14 億円
ユーロ：155円	営業利益：	ユーロ 3億円 1億円						

中期経営計画最終年度（2025年度）経営目標

財務目標

業績

売上高

5,500億円

営業利益

800億円

営業利益率

14.5%

資本効率

ROE **12.5%**以上

ROIC **11.0%**以上

株主還元

配当性向 **30.0%**以上を維持

非財務目標

気候変動対策

事業活動と製品使用に伴うCO₂排出量の削減

・自社排出量 : **1.0**万t-CO₂

・削減貢献量*1 : **1.2**万t-CO₂

(2025年度)

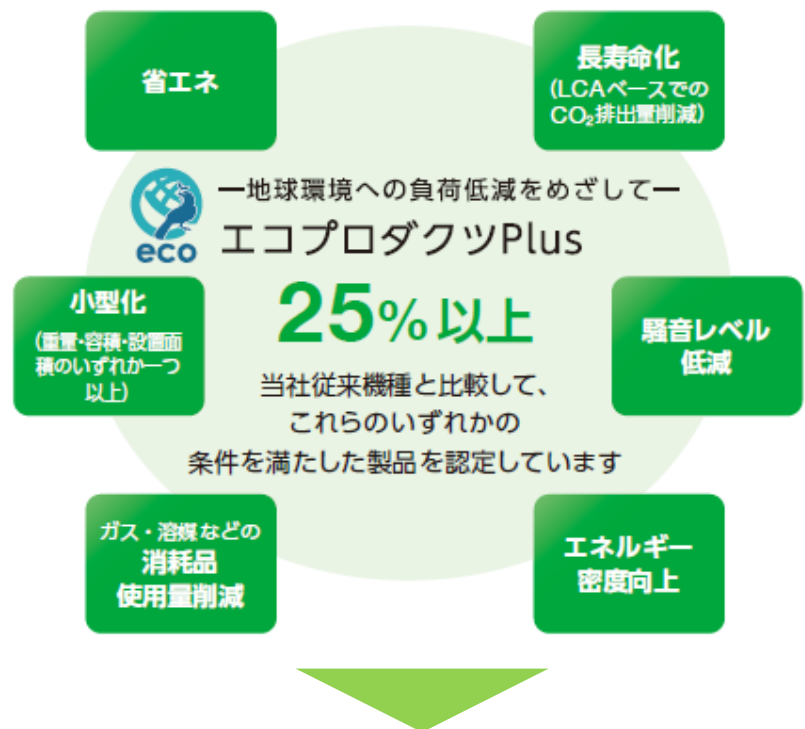
*1当社エコプロダクツPlus制度認定製品を利用したことによる顧客のCO₂削減量

女性活躍推進

女性管理職比率(連結) **12%** ⇒ **15%**
(2025年度) (2030年度)

E : 「すべての製品のエコ化」を推進

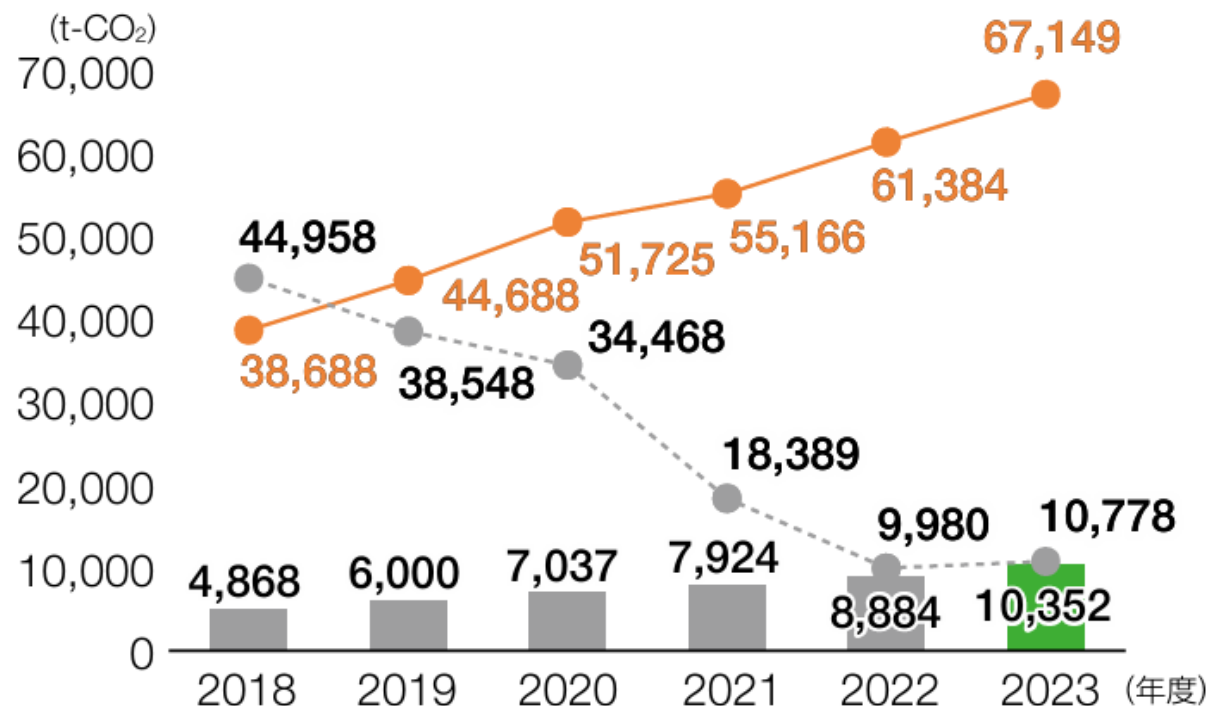
環境配慮認定製品エコプロダクツPlusの要件



2030年度までに製品売上高の**30%**を
環境配慮認定製品エコプロダクツPlusとする

島津グループCO₂排出量とCO₂削減貢献量

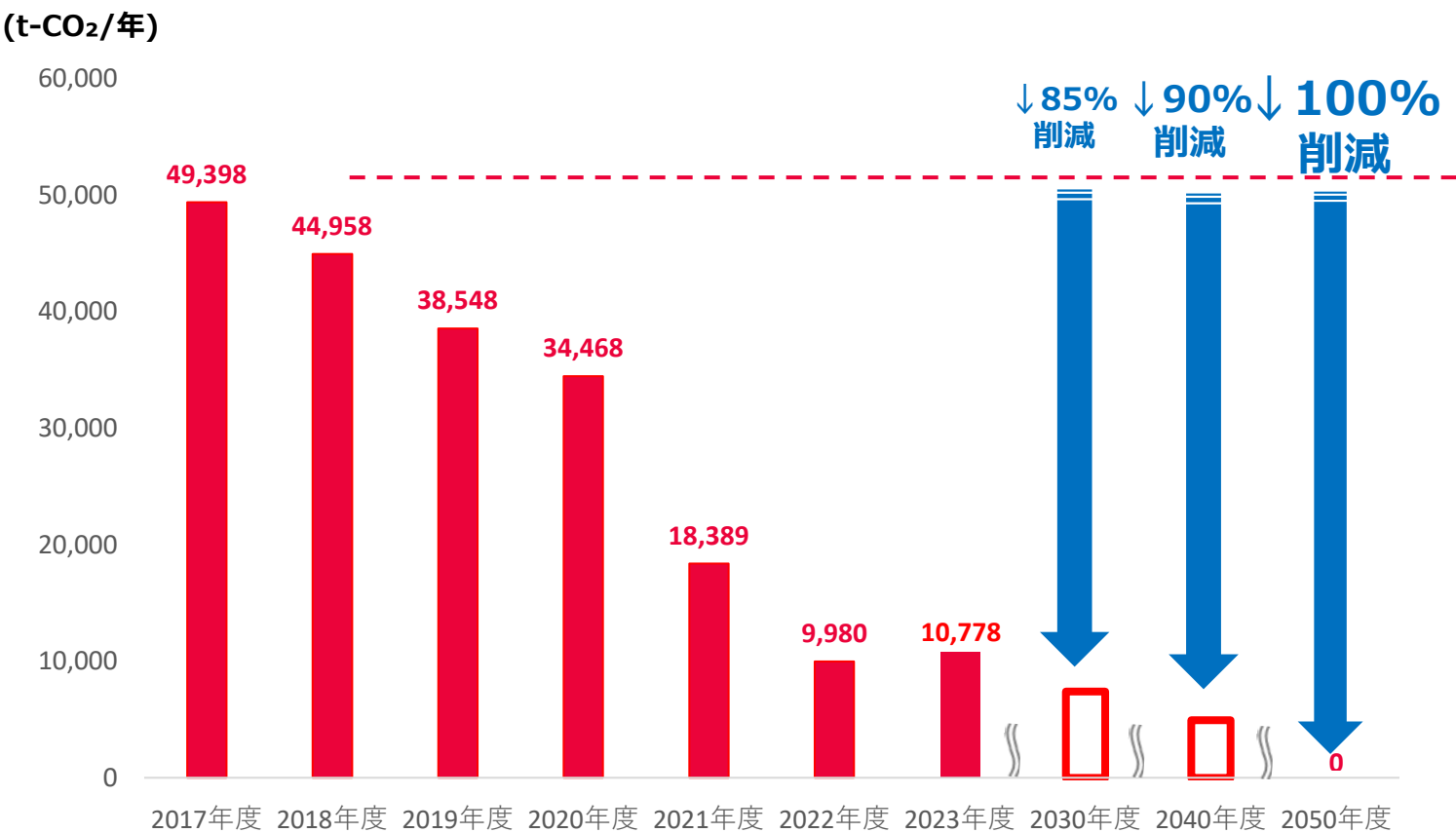
■ 年度内に新規に販売された製品の削減貢献量 — 市場累計量
— 島津グループエネルギー起因CO₂排出量



※CO₂削減貢献量：当社の製品の使用により、顧客のCO₂排出量を従来よりも削減させた量のこと。
計算式 CO₂削減貢献量＝従来製品のCO₂排出量(t/年)-新製品のCO₂排出量(t/年)で算出

E : 事業における環境負荷低減「CO₂排出量の削減」

島津グループの事業活動によるCO₂排出量



2019年5月：TCFD宣言への賛同



2021年3月：RE100を宣言

RE100

CLIMATE GROUP



2022年2月：
「サプライヤーエンゲ
ージメントリーダー」に
選定



2022年10月：SBT認定を取得

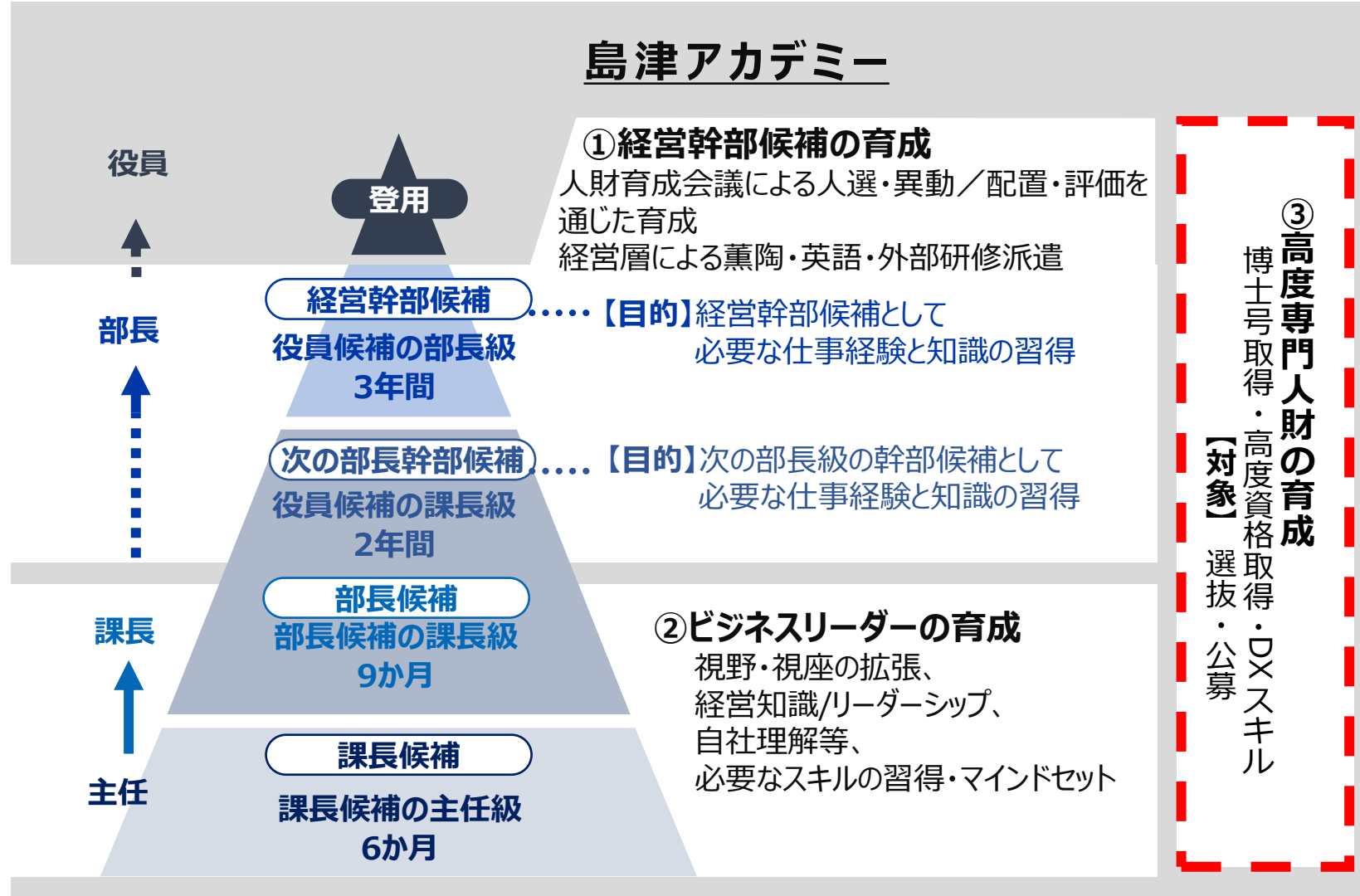


SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

S : 将来に向けた人財育成 ～研修事例～

■ 事業戦略の実現、経営基盤強化を目的に、島津アカデミーを通じて人財育成を推進する



S : 高度専門人財の育成

- 顧客ニーズの深堀り、製品やサービスの革新に向けて、グローバルな事業成長に資する博士号取得と博士人財の採用・育成
 - REACHプロジェクト/社会人博士育成支援制度（SPARK）などにより博士号取得を促進
 - 持続的な成長に必要な、高度な技術的専門性や経営管理スキル・能力をもつ専門人財の獲得

社内制度

共同研究を通じた博士号取得支援

創業以来、大学、公的研究所などと共同研究を積極的に推進

- 2003年から資格取得奨励一時金制度を開始

博士号取得者 142名
うち、入社後取得者 40名

- 2024年に博士号取得のための学費補助制度 SPARKを新設

2024年4月から2名が制度活用

SPARK

Shimadzu Ph.D. scholarship for Professional Advancement through Research and Knowledge

大学との人財育成

REACH プロジェクト

【ストレート】修士卒を社員として採用後、博士後期課程で共同研究に参加させ博士号取得

【キャリア】若手研究者・技術者などの社員を事業戦略上の重要研究領域の博士課程に派遣
復社後は高度な研究能力、人的ネットワークを有する人財として活躍

大阪大学
ストレート・キャリア

長崎大学
ストレート

早稲田大学
ストレート

REACH : Recurrent & Re-skilling through Academia and Industry Collaboration for Higher Education

早稲田大学と連携

早稲田 ■ 総合知融合 ■ 島津

新たな社会価値の共創

新たなイノベーション創出
中核人材の輩出

- 早稲田と島津が保有する総合知を融合し、新たな社会価値を共創
- 産学連携による研究・教育と人材交流を通じて、社会課題の解決可能な人材輩出

⇒ 上記REACHプロジェクトに加え、「最新分析機器によるデータ取得や高度解析技術の習得させ、早稲田大学の技術職員を対象とした高度人材育成を推進」

S : ダイバーシティ経営の推進



Embrace Differences, Include One and All 違いを認め、受け入れよう

島津グループには、様々な属性、視点、価値観、経験、専門性をもつ仲間がいます。私たちは社員の多様性を歓迎します。その多様性を最大限に活かすことで、すべてのステークホルダーとともにイノベーションを創造し、社会課題を解決し続けることを目指します。そのために、DE&I 推進を通して一人ひとりが社会や会社への貢献を感じ、島津グループの一員として誇りを持てる環境を構築します。



女性リーダーの育成とキャリア支援

- ・管理職一步手前を対象としたShimadzu Women Next Career Design研修
- ・フレックス、テレワーク、時間単位年休や出産育児に関する幅広い支援制度など、女性が活躍できる環境を整備

女性管理職比率

2023年度 11.1% → 2030年度目標 15%以上

女性育休取得率*

6年連続 100%

女性の育休からの復帰率*

3年連続 100%

男性育休取得比率*

2020年度 22.7% → 2023年度 65.5%

*単体データ

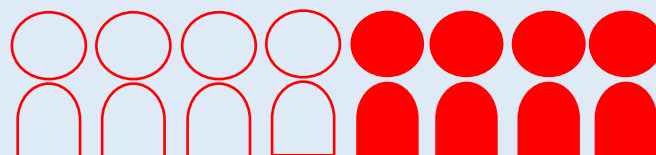
G : コーポレートガバナンス

- 多様性のある構成
- 経営の透明性と客観性を確保

取締役会の構成



全取締役8名の**1/2**が
社外取締役

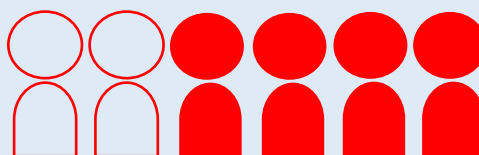


※社外取締役4名のうち、2名が女性取締役

指名・報酬委員会

委員長は社外取締役

委員の**2/3**が社外取締役



※委員6名中4名が社外取締役

■ 純投資目的以外で保有する株式(2024年3月31日現在)

連結総資産の2.1%

連結純資産の2.9%

政策保有株式推移

銘柄数

(銘柄)

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
非上場株式	30	30	30	30	28
非上場株式 以外の株式	36	30	24	22	22

貸借対照表計上額

(百万円)

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
非上場株式	525	519	612	1,530	1,381
非上場株式 以外の株式	10,418	11,907	11,405	10,426	13,054